

会 議 録

会 議 の 名 称	令和5年度第1回行田市総合教育会議
開 催 日 時	令和5年8月8日（火） 開会：午後2時00分　閉会：午後4時05分
開 催 場 所	行田市産業文化会館　2階　第2会議室
出席者（委員） 氏 名	行田邦子市長、渡辺充教育長、鹿山高彦委員、 飯塚千十世委員、大澤恵子委員、大竹洋平委員
欠席者（委員） 氏 名	なし
事 務 局	教 育 部：小池教育部長、石崎教育部次長兼教育指導課長、 長島教育総務課長、岡部教育部副参事、 新井教育総務課主幹、岡島教育指導課主幹 総合政策部：岡登総合政策部長、諸貫参事、川上企画政策課長、 伊藤企画政策課主幹、進藤企画政策課主任、 高橋企画政策課主事
会 議 内 容	・議事　これからの教育行政について （1）学校再編成の方針と基本的な考え方 （2）本市における英語教育について ・その他
会 議 資 料	・会議次第 ・行田市総合教育会議構成員名簿 ・資料1：これからの教育行政について ・行田市教育大綱（R3-R7） ・行田市小中一貫教育基本方針 ・行田市公立学校適正規模・適正配置の基本方針及び再編成計画 ・行田市総合教育会議設置要綱
そ の 他 必 要 事 項	傍聴者　4名



- 二つ目は、「アイデンティティの確立」、すなわち、人間の背骨をつくることである。行田の子どもたちのアイデンティティの確立のためには、古代から近代までの歴史や素晴らしい文化、自然などの郷土に対する誇りを持ってもらうことが重要であり、学校教育の中で培うものと考えている。
- そして、「生き抜く力」を培い、「アイデンティティ」を確立させるために、ソフト面とハード面での教育環境の整備が必要であると考える。
- まず、ソフト面については、学校教育だけでなく、地域社会での教育、家庭教育、これらが三位一体となり、これを上手く掛け合わせていくことが重要であると考える。
- ここで、教育行政について、課題を述べさせていただく。一つは、教員の働き方改革である。良い教員を確保するためにも、子どもたちの「生き抜く力」や「アイデンティティ」の確立をするためにも教員の労働環境の改善は重要である。
- もう一つは部活のあり方である。これまでは学校教育だけで担ってきたが現在は難しい状況であると思う。その中でも部活を縮小するのではなく、できることなら充実させていきたいと考えている。今後、どのような部活のあり方が適正であるか、教育委員の皆様にも知恵をお借りしたい。
- また、子どもたちの教育の中で、不登校や引きこもりといった問題も解消しなければならないと思っている。学校現場では、特に子どもたちの小さい変化を見逃さないようにすることで、未然に防ぐことができるのではないかと思う。さらに「ヤングケアラー」に関しても非常に問題意識を持っている。
- 続いて、ハード面についてだが、現在、学校が適正規模を保てておらず、このままでは維持できないという学校も出てきている深刻な状況である。子どもたちが「生き抜く力」や「アイデンティティ」を確立するためには、学校が適正規模でなければならないと思う。そのためには、小中学校を統廃合し、義務教育学校、あるいは小中一貫校に再編していきたいと考えている。そして、校舎などの学校施設も老朽化していることから、限られた予算の中ではあるが改修していく必要があると思っている。
- ここまで、主に子どもたちの教育について話してきたが、私は生涯学習という点も大切にしていきたいと考えており、行田の素晴らしい歴史や文化を活かした生涯学習が、埼玉県で一番あるいは日本一充実していると思われる市にしていきたいと思っている。そこで、知識の習得だけでなくスポーツ、音楽、芸術、文化、こうした様々な生涯学習のあり方を検討していく環

	<p>境整備のために、教育委員会の体制をどのようにすべきか、教育長と意思疎通を図りながら考えていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• また、子どもから高齢者、障がいを持つ方も誰もがその能力を發揮できる「幸福長寿日本一の行田市」、言い換えれば、すべての市民の人権が尊重される社会の実現を目指していきたい。</li> <li>• 最後に、私が掲げる「新しい行田の好循環」という視点で、教育行政をどのように位置づけているのか説明したい。</li> <li>• 現在の行田市の最も深刻な問題は人口減少であり、とりわけ若年層の転出が多いことを危惧している。この人口減少に歯止めをかけるために、子育て支援や教育の充実、新しい雇用の創出、国道17号の高速道路化などの交通アクセスの整備などを通して新しい行田の好循環を作っていく。特に教育については、「小中一貫校で英語の出来る行田っ子」という表現を使っており、市民の皆様も非常に関心の高いテーマであると思うが、その中でも市民の方が最も関心が高いのは、学校再編であると考えている。</li> <li>• ここまで、教育についての思いを述べてきたが、委員の皆様から感想などを聞かせていただきたい。</li> </ul>
鹿山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 市長の話のとおり、学校の運営にあたっては、今できていないことを新しい視点でスピード感を持ってやっていく必要があると思う。</li> </ul>
大竹委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 子どもたちが自立していくためには、能力・感性・人間性を養っていくこと、また、「生き抜く力」を養っていくことが大事であると認識している。そこを磨いていくために、より充実した教育が必要であると思う。</li> </ul>
飯塚委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 複雑多様化した現代で「生き抜く力」を養っていくことは重要であり、これからの時代に合わせた教育方法を考えていく必要があると私も思っている。また、人口減少問題として、二十歳を祝う会のアンケート結果において、行田に戻ってきたいと思っている若者が少ないというのが現実である。教育行政だけでなく、市全体として戻ってくる若者が増やせるようにすることが課題であると思う。</li> </ul>
大澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 私も教育現場に勤めてきたが、学校や地域での充実した教育によって、子どもたちが確かな学力と生きる力を身に着けていくことは大切だと思う。また、学校においては、行田の素晴らしい資源を活用し、子どもたちが郷土への誇りを育むための特色</li> </ul>

	<p>ある教育や子どもたちが安心して学習できる教育環境を整えることが大切だと思う。</p>
<p>教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市長の熱い思いを聞いて、市長の思いを具現化しなければと教育委員会も私自身も身の引き締まる思いである。</li> <li>・ 子どもは日本の未来そのものであり、教育は子どもの最大の投資であると認識している。教育は時間のかかるものであるが、新しい行田の好循環を作っていくためにも、教育改革を進めていきたいと思う。</li> </ul>
<p>議長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育委員の皆様と思いが共有できて嬉しく思う。</li> <li>・ それでは、本日議題に移りたいと思う。次第に基づき、順次進めさせていただく。</li> <li>・ 次第3「議事」の「これからの教育行政」についての「(1) 学校再編成の方針と基本的な考え方」について事務局より説明をお願いします。</li> </ul>
<p>事務局</p>	<p style="text-align: center;">＜資料1により詳細説明＞</p>
<p>議長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ただいまの説明に関し、委員の皆様と議論をしてきたいと思うが、その前にまず、見沼中学校区義務教育学校の計画が白紙となってしまった経緯などについて、委員の皆様の見解を聞かせていただきたい。</li> </ul>
<p>鹿山委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当時義務教育学校を設立するにあたり、学校の中で9年生と1年生が一緒の校庭で遊ぶことが危ない等の意見があった。初めての義務教育学校の設立ということで、メリットを説明しきれなかったのではないかと感じる。</li> </ul>
<p>議長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新しいことについて、もう少し丁寧に説明するべきだったということか。</li> </ul>
<p>鹿山委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当時、教育長を中心にしっかりと説明はしていたと思うが、最終的には、市民の皆様を理解を得ることができなかったことは残念である。</li> </ul>
<p>大竹委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 丁寧に説明はしていたかもしれないが、地域や家庭からすると、新しいことに対する恐怖心が強かったのではないかと感じる。規模の大きなことであるので、試行期間を設けるなどもう少し時間をかけていくことも必要なのではないかと感じる。</li> </ul>

飯塚委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域住民向けの説明会に参加できなかった人やそもそも説明会を知らなかった人もいたと思うので、そういった人への配慮が足りなかったと思う。また、市長部局と教育委員会がもっと同じ方向性を持って、綿密な連携を取る必要があったと感じる。さらに、市民の皆様との約束が二転三転した部分もあると聞いているので、信頼を得ることができなかったことも要因の一つではないかと思う。</li> </ul>
大澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンケートなどを行い、しっかりと説明はしていたと思うが、地域全体として賛成を得ることができなかったと思う。賛成している方も多くいたので、粘り強く説明を行うべきだったと感じている。また、地域として核家族の方も多く、祖父母世代が、地元の学校がなくなってしまうことに抵抗感をもっている方もいた。将来的な見通しをもって綿密な計画を立てていただけない、残念でならない。</li> </ul>
教育長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 振り返ってみると、説明不足であったと反省せざるを得ない。やはり初めてのことに対する抵抗感があった中で、父兄や市議会議員、教員、元教員などの皆様に、最終的には説明が不足していたのではないかと感じている。また、小中学校がなくなることに対する配慮も足りていなかったのではないかとも思う。しかし、現在は義務教育学校の視察に行くこともできるので、より説明ができるようになるのではないかと、以前よりも状況は好転していると認識している。</li> </ul>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでの反省を活かして、子どもたちのためにあるべき形にしていきたいと思う。</li> <li>・ 続いて、これは確認であるが、小学校は12学級から18学級、中学校は9学級から15学級が適正規模の学校であるとのことであるが、一定規模を維持する必要性があるのかどうか、委員の皆様にご意見を伺いたい。</li> </ul>
鹿山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 例えば、少人数学級においても、教員の目が行き届きやすいというメリットはあると思うが、1,000人規模の高等学校に入学した場合に生徒が適応できない可能性があることやクラス替えができないことで友達の輪ができないことなど、デメリットもある。こうしたことを考えると、学校は適正な規模の学級を維持する必要性はあると思う。</li> </ul>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今の鹿山委員のご意見について、他の委員の皆様からご意見はあるか。</li> </ul>

	<p>&lt;一同、意見なし&gt;</p>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 皆様からの意見により、学校はやはり適正規模を維持する必要性があるとの見解となったが、次に維持する方策について議論していきたい。</li> <li>・ 方策としては、これまで話の進んでいた義務教育学校あるいは、小中一貫校などの9年制学校が挙げられると思うが、適正規模の維持という観点からいうと、2つ以上の中学校を合併させるという案も挙げられるかと思う。この中学校の合併について、ご意見をいただきたい。</li> </ul>
鹿山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私は、義務教育学校がいいと思う。義務教育学校の最大のメリットは、小学校高学年から教科担任制を取り入れることができることで、それにより、中1ギャップの解消や学力向上につながっていくと思う。また、小学校の教員が高学年の指導から解放されることで、低学年に特化した教育ができることもメリットである。小学校低学年と高学年では教員に求められていることが違うので、適正な時期に適正な指導するためには義務教育学校が必要であると考えます。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鹿山委員は、学校の適正規模を維持するためには、中学校の合併ではなく、義務教育学校がよいとの意見であったが、その他に意見はないか。</li> </ul>
飯塚委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「行田市公立学校適正規模・適正配置の基本方針及び再編成計画」の長期ビジョンの中で、学校を東西南北に分ける施設分離型という考えがあり、その中で、中学校の合併も含まれるのではないかと考える。また、小中一貫校への再編としてこれまで進めてきているので、短期的な単なる中学校の合併ではなく、長期的な9年制学校の方がよいと思う。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 短期的な中学校の合併というわけではなく、長期的にみて、義務教育学校や9年制学校への再編成をしていくという考え方で、皆様よろしいか。</li> </ul>
	<p>&lt;一同、同意&gt;</p>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ それでは、小中一貫教育の取組が進んでいるので、その現状について事務局から説明をお願いします。</li> </ul>

事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成26年度から各中学校に2年間ずつ小中一貫校の調査研究をお願いしており、昨年度すべての中学校で終了したところである。その中で、中学校の教員が小学校で授業を行うことや小中学校の教員が合同研修を行うこと、小中学生と一緒に学校行事に取り組むこと、卒業生に小学校の運動会などの準備や片付けを手伝ってもらうことなどの小中連携の取組を実施した。</li> <li>また、教育課程においては、小中学校の各教科で年間の指導計画を少し合わせてみるなどの取組を実施した。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局からみて、先行事例となりそうな学校はあるか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>埼玉中学校や南河原中学校、太田中学校、見沼中学校の4校については、小学校から全員が中学校に入学するため、小中一貫校に近い環境となっている。また、西中学校のような大きい学校においても、掃除のやり方を統一するなどの取組を実施しており、どの中学校でもある程度小中一貫教育が進んできている。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設分離型の小中一貫校に近い状態まで4つの学校では進んでいるということか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校でカリキュラムを統一するところまでは進んでいないものの、施設分離型の小中一貫校には調整次第で移行できる状況だと認識している。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>この点について、委員の皆様から意見を伺いたい。</li> </ul>
鹿山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>以前の総合教育会議で提案をしたと思うが、小学校の全員が中学校に入学するのであれば、1年生から4年生は小学校の校舎で授業を受け、5年生以降は義務教育学校のように中学校の校舎で小中学校の教員の授業を受けることができるのではないかと思う。実現の可能性は不明ではあるが、実際に義務教育学校が設立される前の暫定的な手段として、金銭的な面も抑えながら実施が可能ではないか考える。</li> </ul>
大澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>鹿山委員から暫定期間の話が出たが、現在も中学の英語教師が小学校で授業するなどの取組を実施していると思うが、子どもの成長は早いので、特に技能系や芸術系の教科なども段階的に増やしていければよいのではないかと思う。</li> </ul>

議 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新しいことを始めていくことへの恐怖心というものがある中で、一つのやり方として、施設分離型の小中一貫校において、9年制というものは良いものなのだと市民の皆様の実感・評価してもらうことも必要であると思う。ただ、実施に向けてあまり時間はないと考えている。</li> </ul>
教 育 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務局への確認だが、先ほど、施設分離型の小中一貫校で先行して実施する話が出たが、教員の免許については問題ないのだろうか。小中学校両方の免許を持っていれば問題ないと思うが、その辺りについてはどのような認識か伺いたい。</li> </ul>
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乗り入れ授業を行うには、両方の免許を持っている必要がある。しかし、現在、埼玉県教員の採用においては、小学校・中学校の免許を単独で取得していれば試験を受験することができるため、小中学校の両方の免許を取得している方を採用することは難しい状況ではあると認識している。</li> </ul>
大竹委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小中一貫校になった場合に、小学校の免許だけ持っている教員は小学生の年齢の子どもを教え、中学校の免許だけを持っている教員は中学生の年齢の子どもを教えるということとはできないのか。</li> </ul>
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小中一貫校においても義務教育学校においても、中学校の免許がない小学校の教員が中学生を教えることはできないが、小学生の年齢の子どものみと区切れば教えることは可能である。</li> </ul>
大竹委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 埼玉小学校と埼玉中学校のように、小学生全員が同じ中学校に入学する場合に、中1ギャップは生まれないのか。</li> </ul>
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9年間同じ人間関係となるため、交友関係が広がらないという課題はあると認識している。</li> </ul>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在の埼玉中学校のような規模だと、子どもの人数の問題から人間関係が広がらないという課題もあるということが確認できた。</li> <li>・ では、次に、平成31年3月に「学校適正規模適正配置基本方針」が策定されてから4年が経ち、ここから再スタートだと思っているが、現状、策定当時から生徒数も減少しているかと思う。計画では義務教育学校は4つに再編成されるとなっているが、4つでは多いのではないかという考えもある。私としては、策定した計画をベースに、現状に合わせた見直しが必要で</li> </ul>

	<p>はないかと思っている。その点について、教育長の意見を伺いたい。</p>
<p>教 育 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画中の児童生徒数の推移予測は古いデータであり、現実としてこの数値から5%以上は児童生徒が少なくなっている。そのため、このままでは、4つの学校への再編成においても適正規模の学校ではなくなる可能性もある。その点を踏まえた上で、計画の見直しを図り、皆様に示し納得いただく形で進めていきたいと考えている。</li> </ul>
<p>議 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委員の皆様はいかがか。</li> </ul> <p style="text-align: center;">〈一同、同意〉</p>
<p>議 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委員の皆様の同意ということで、計画の見直しを行うということで進めていただきたいと思う。</li> <li>・ もう1点伺いたいですが、本年の3月の行田市公立学校通学区域等審議会の答申内容については、皆様も議論をされたということによろしいか。</li> </ul> <p style="text-align: center;">〈一同、同意〉</p>
<p>議 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ すでに委員の皆様も議論されたということで、答申内容についての議論は割愛させていただく。</li> <li>・ これまでの内容をまとめると、学校再編成の方向性としては、適正規模の学校を維持していくため、9年制である義務教育学校の設置を目指していく。その方法として、前回の状況を踏まえた上でソフトランディング的な方法も検討していく必要がある。いずれにしても、教育免許の問題を踏まえながら計画の見直しを考えていかなければならない。</li> <li>・ 私としては、学校の再編は教育という視点が一番大切だと思うが、一方で、公共施設のマネジメントという視点やまちづくりの視点も非常に重要だと思っている。これらの視点で学校再編を考えていきたいと思う。</li> <li>・ それでは、次の議題に進ませさせていただく。次第3「議事」の「これからの教育行政」についての「(2)本市における英語教育」について事務局より説明をお願いします。</li> </ul>
<p>事 務 局</p>	<p style="text-align: center;">〈資料1により詳細説明〉</p>

議 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 義務教育学校の設立のために特色ある学校を作りたいということで、私は「英語の出来る行田っ子」と謳っているが、英語というツールで何をするかが重要であり、冒頭で話をしたアイデンティティの確立と併せて、取り組んでいかなければならないものだと認識している。</li> <li>・ 英語教育の取組について、委員の皆様の見解を伺いたい。</li> </ul>
鹿山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語などの語学については、早い段階からネイティブスピーカーの声を聴かないと、身に付けることは難しいと認識している。そのため、現状では小学校1年生で月1時間の授業となっており、とても時間が短いと感じる。低学年においては、授業という枠組みではなく、昼休みや放課後、学童保育室などでALTの方と遊ぶなど、英語を身近に感じられる環境を作ることが大事だと思う。</li> </ul>
飯塚委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校の全学年において、1年間で教科書を5周する「5ラウンドシステム」について、熊谷市では公立学校のほとんどすべてで実施しているという成功例もある。特色ある教育ということでチャレンジする良い取り組みになるのではないかと思う。</li> </ul>
大澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現代のグローバルな社会においては、英語のコミュニケーション能力を身に付け、国際社会で活躍する人材の育成を行うことは重要であると思う。そのため、現在のALTの授業数は少ないと感じる。1校に1名常駐させて、子どもたちがいつでも交流できるようにした方がよいと思う。</li> </ul>
大竹委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年齢を重ねるごとに英語を話すことへの恥ずかしさが増してくるのではないかと思う。こうした恥ずかしさを感じさせない、また、失敗を恐れずチャレンジできる環境づくりも必要だと思う。</li> </ul>
教 育 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特色ある教育ということであれば、熊谷が5ラウンドであれば、行田は7ラウンドぐらい行う覚悟を持たないと意味がないと思っている。1校でも2校でもやれるところから進めていきたいと思う。また、ALTの問題なども、財政部局と予算関係の相談をしながら進めていきたいと思う。</li> </ul>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語教育については、公立学校としては非常に大胆な取組を行っていきたいと思っているので、よろしく願います。</li> <li>・ 本日は委員の皆様からご意見を伺い、考えを共有することができうれしく思う。</li> </ul>

<p>司 会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ それでは、以上で、本日の議事を終了させていただきます。</li> </ul> <p>4 その他</p> <p style="text-align: center;">〈報告内容なし〉</p> <p>5 閉会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 以上をもって、令和5年度第1回行田市総合教育会議を閉会とする。</li> </ul> <p style="text-align: center;">〈閉 会〉</p>
------------	---